誰かの笑顔のために

学校法人杉並学院　杉並学院高等学校　１年
西山　美里

今年の二月に母と喧嘩をした時、つい「うるさいな」と言ってしまった。すると次の瞬間「今、うるさいって言ったでしょ」そんな言葉が返ってきた。それを聞いて、私は喧嘩していることも忘れるほど嬉しくなった。私の声が母に届いたことが嬉しかった。

私の母は難聴だ。一歳の頃に高熱で内耳に障害を負い、音が聞こえにくくなった。小さい音が聞こえないだけでなく、聞こえる音の幅が狭いため、大きな音は不快に感じるそうだ。母の聴力は 100 dB程度で、100 dBは電車が通過している時のガード下で聞こえるぐらいの大きさの音だ。私たちがうるさいと思う音が母には全く聞こえないのだ。補聴器をつけていても 60 dB程度しかなく、これは日常生活に支障が出る聴力だ。その母が昨年末に手術を受け、聴力が 35 dBにまで上がった。母が受けた人工内耳の手術は蝸牛の中に電極を、側頭部の皮下に受信コイルを挿入し術後に体外部分のマイクと受信コイルは皮膚を挟んでマグネットで固定し、聴こえるようにするものだ。この人工内耳は両耳の装置と手術の費用で 800 万円ほどする。この手術を母は医療保険、東京都の重度心身障害者医療補助制度の医療保険を組み合わせることで 10 万円ほどで受けることができた。もしも税金がなく、医療費が全て自己負担だったら、母はこの手術を受けることができていなかっただろう。

母が手術を受けてから、私は税金について考えることが以前より多くなった。意識してみると、私たちは様々な場合で税金を使用していることが分かる。医療費助成制度はその最たる例だろう。実際、国の歳出のうち 33.5%が私達の健康や生活を守る社会保障に使われている。医療費以外にも市役所、学校、道路、上下水道、ごみ焼却などの公共施設の提供といった身近なことから、災害復旧といった大きな事業までもが税金によって賄われている。「税金が正しく使われていると思えない」と言う言葉を最近よく耳にする。確かに税金の使い方に関しては様々な意見があり、多くの課題もあるだろう。しかし、税金によって私たちの生活が支えられており、多くの人が笑顔になっているのだ。

「電車のアナウンスが聞こえる」
「鳥の鳴き声が聞こえる」
人工内耳の手術を受けてから、母が笑顔でそう報告してくれる。今までほとんど音のない世界で生きてきた母にとって全てが新鮮で毎日が発見の連続なのだろう。数年後、私は自分でお金を稼ぎ、税を納めることになる。その時は、母のように誰かが笑顔になることを願い、責任を持って税を納めたい。